

2022年度 日本工学院専門学校											
声優・演劇科											
舞踊Ⅲ											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	選択	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	花柳寿芽月			実務経験	有	職種	舞踊家				
担当教員紹介											
日本舞踊 花柳流 師範 日本大学 芸術学部 卒業											
授業概要											
1 年次に学んだ基礎的動作の学習テキスト「踊り解体新書」シリーズの上級編「踊り解体新書Ⅲ」を用いて、琴や尺八をとり入れた現代邦楽の作品にチャレンジする。音楽を聴いた時の自己のイメージから連想された舞踊表現をテーマに併せて呼吸の表現-息の詰め、開き-を重視した作品を習得する。前期には歌舞伎舞踊的 2 作品から役柄の特徴の踊り分けを学び、後期にはリズムカルな作品で手踊りと、晒（さらし）と呼ばれる小道具の扱いを学ぶ。最終作品として創作舞踊「涛-とう-」（花柳園喜輔・振付）をデュエットで習得する。											
到達目標											
江戸時代に開花した庶民の芸能歌舞伎の一端を実体験することにより当時の文化の有様を推察しながら日本人の感性の鋭さの理解を共有する。そして、国際社会に於いて自国の伝統文化を説明することが出来、更なる日本伝統文化の継承と発展に帰依する真の国際人への成長をめざす。											
授業方法											
日本舞踊を踊るための身体作りや基礎的動作を発展させ、舞踊作品の一部を習得していく。											
成績評価方法											
実技テスト	90%	課題舞踊を試験し、技術、情感等総合的に評価									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度により評価									
履修上の注意											
日本の伝統芸能の多くは先ず稽古と呼ばれる、形式や型等外観的要素を重んじた練習形態である。その上で精神性を注入し、人間性の濃い表現へと移行することが大切と思い創作にもチャレンジする。コピーでないひとり1人の表現を尊重し、各々の個性を生かした表現の実現を目指す。授業時数を85%以上出席しない者は実技試験を受験することができない。											
教科書教材											
私家版 各作品の解説、歌詞本											
回数	授業計画										
第1回	「踊り解体新書Ⅲ」 琴や尺八をとりいれた現代邦楽の音楽を聴き、感じる。										
第2回	「踊り解体新書Ⅲ」 音楽性から独自性の舞踊表現を探す。										
第3回	「踊り解体新書Ⅲ」 呼吸の表現（息の詰め、開き）について知る。										
第4回	「踊り解体新書Ⅲ」 呼吸の表現について実践する。										
第5回	「長唄 潮来」若い娘の踊りを学ぶ。										

2022年度 日本工学院専門学校	
声優・演劇科	
舞踊Ⅲ	
第6回	「長唄 潮来」役柄の特徴を探す。
第7回	「長唄 潮来」役柄の特徴の表現に必要な舞踊要素を考える。
第8回	「長唄 潮来」役柄の特徴の表現に挑戦する。
第9回	「長唄 潮来」役柄の特徴を踏まえて踊る分ける。
第10回	「長唄 雨の五郎」歌舞伎舞踊的作品から荒事の踊りを学ぶ。
第11回	「長唄 雨の五郎」荒事（男踊り）について知る。
第12回	「長唄 雨の五郎」役柄の特徴の表現に必要な舞踊要素を考える。
第13回	「長唄 雨の五郎」役柄の特徴の表現に挑戦する。
第14回	「長唄 雨の五郎」役柄の特徴を踏まえて踊る分ける。
第15回	「長唄 潮来」、「長唄 雨の五郎」についてまとめ